



# まなび通信

テーマ

## 課題解決型学習の手法を意識した教科等における授業改善

令和3年9月3日(金)、小中学校研究主任を対象にオンラインにて「令和3年度学力充実会議」を実施しました。中丹の児童生徒の学力向上のための手法として「課題解決型学習」について、講義や実践発表を通して理解を深めました。

講義 京都府中丹教育局 指導主事 松嶋 亮潤

### 「課題解決型学習の手法を意識した教科等における授業改善について」

#### 問いを「引き出す」課題設定の工夫

教材(教科書・体験・実演・観察・対話等)と子どもとの出会いを通して

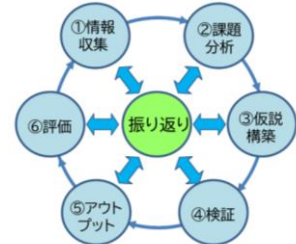
【教材との出合わせ方の工夫】

- 一部を隠したり、少しずつ見せる。
- 複数の資料を比較(対比)させる。
- 事象(現象)の理由を考えさせる。
- 分類や関係づけから特徴を考えさせる。
- 既習(できる!!)から未習(あれ?)のギャップを感じさせる。
- 条件や制限などを与える。

本時の学習課題(めあて)

子どもの主体的な姿勢をはぐくむ

#### 課題解決型学習のプロセスの往還



中丹教育研究センター【中丹のまなび】より

子どもの学びの深まりを生み出す

### 実践発表

舞鶴市立中舞鶴小学校  
石黒 健太 教諭



「課題解決型学習と主体的な学び」  
～総合的な学習の時間の実践を通して～

- 児童に付けたい力の系統表を作成し、それに基づいて総合的な学習の時間の授業を進めている。付けたい力は、全ての教育活動を通して育成する児童像として共有している。
- 課題解決型学習では、課題設定が重要となるが、目の前にある事象が課題であると気付くことができなければ課題設定はできない。そのため、毎朝、自分が気付いたことを発表させたり、教科の授業で「気付いたことはない?」と繰り返し問いかけたりしている。
- 総合的な学習の時間の充実が教科の学習の充実にも繋がる。授業のめあてを児童が自分で立てられるようになると、何を学習すればよいのかが明確になり、主体性が生まれる。それに伴い振り返りも充実する。また、授業の中でも話し合いが活発になっている。

### 実践発表

綾部市立東綾中学校  
牧 宏明 教諭



「未来の担い手育成プログラム  
研究校の取組を通して」

- 未来の担い手育成プログラムとは、連携先の企業・大学が提示する「正解のない問い」に、グループで協働しながら長期的・継続的に課題解決型学習に取り組む研究であり、令和元年度から研究を進めている。本校が取り組んでいる課題は、「10年後の時代に合った『こちよい』インナーウェアを創造してください」というグンゼ株式会社から提示された課題である。
- 今までの総合的な学習の時間をキャリア教育の視点で見直し、カリキュラムの再整理を行った。指導計画の作成に関わっては、教師の見通しやきめ細かな計画を立てることが必要である。また、今後は端末の活用(アンケートアプリ、シンキングツール、オンラインの会議や交流等)により、生徒の主体的な学びを支援していきたい。

### ～参加者の振り返りより～

- ◆教師の役割は「教えること」から「ファシリテートすること」「コーディネートすること」に移行してきています。教師が教える授業から子どもが自分から学ぶ授業への転換が必要だと感じました。
- ◆具体的な実践発表を聞かせていただき、課題解決型学習を進めていく上で大切なことを多く学ぶことができました。1つ目に、児童にどのような力を付けさせたいのかという思いを明確にして系統的に進めていくということ。2つ目に、教師の基本的なスタンスとして、課題に気付く下地づくりをしつつ、見守り、まかせる勇気が必要だということ。3つ目に、社会とのつながりを大切にすること。課題解決型学習は、各教科にも応用でき、主体的・対話的で深い学びの実現につながるということを学びました。

令和3年度中丹プロジェクト2「中学校授業力向上プロジェクト」では、アドバイザーを中心に研究員の先生方に課題解決型学習の手法を意識した授業改善に取り組んでいただいています。プロジェクトにおける実践についても、今後、発信をしていく予定です。